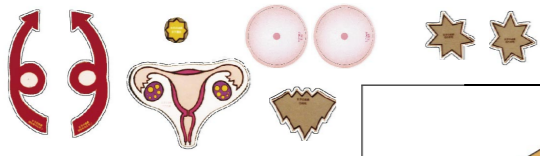


# 基本的なパターン

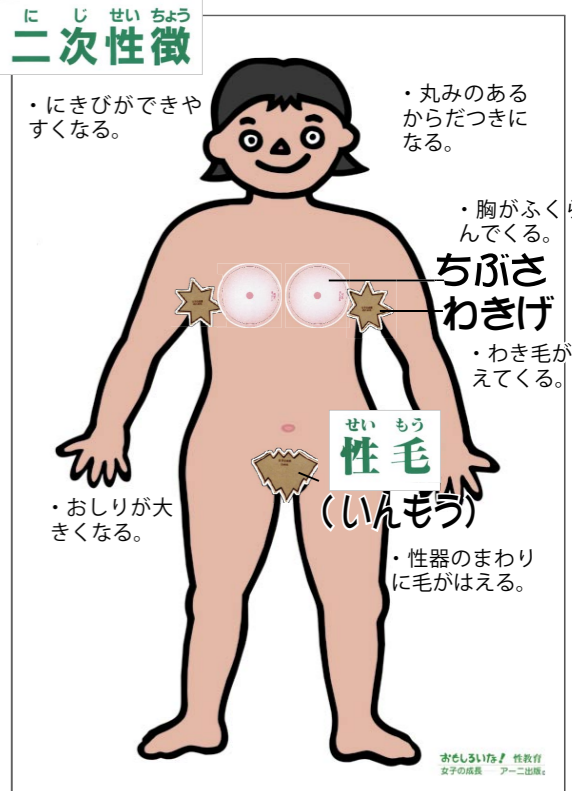
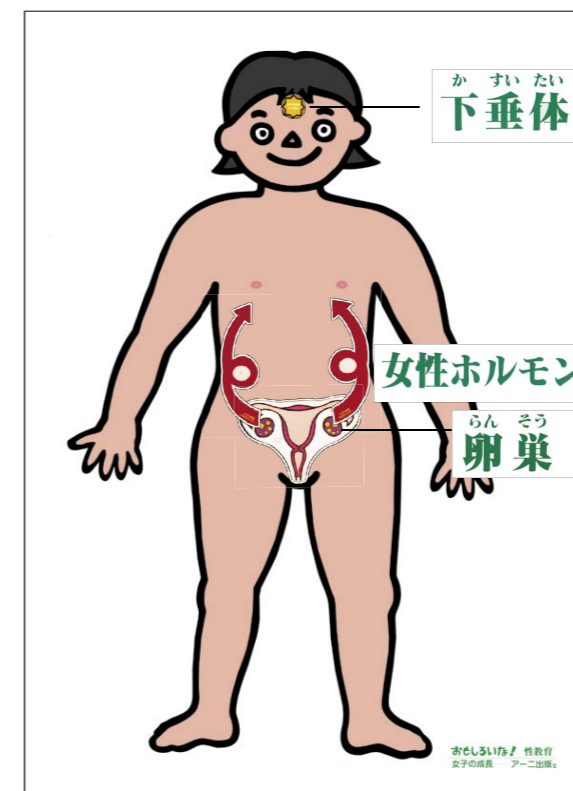
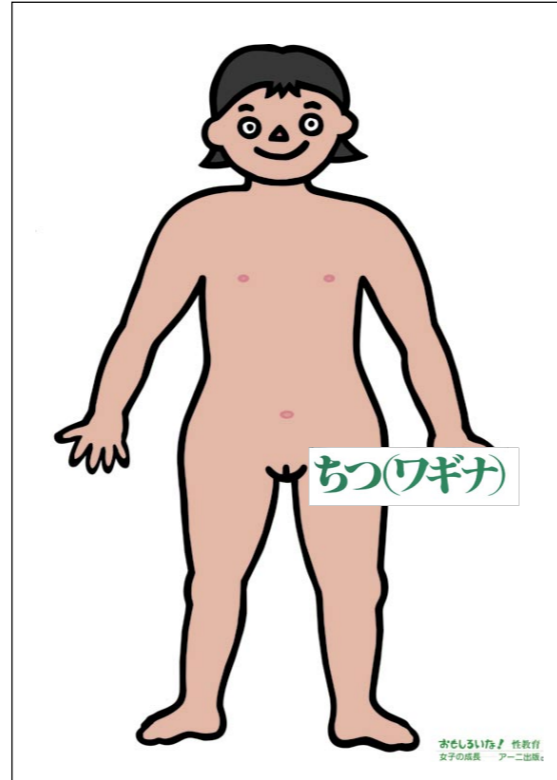
掛図にマグネット付パーツや文字プレートをはっていきます。



## 1. 導入

できれば「女子の成長」「男子の成長」を併用して、どちらが女子か男子か？どこをぬげばわかるかな？などと問いかけ自由に発言させれば、リラックスした導入にすることができます。

その場合、「赤い帽子をかぶっているから女子！」と答える児童がいたら、女子は赤やピンク、男子は青い服といった固定観念こそ問題であることを教え、他にも、「女らしく」「男らしく」のような固定観念はないかなど考えさせたい。男女平等の視点にたった性教育をすすめるための工夫が必要です。



## 2. はだかになると…

女子の性器、子宮、ちつ（ワギナ）など、正しい名称をおぼえさせる。男性器のオチンチンに対する女性器の呼び名（俗語）はたくさんあるが、いずれも男性側がつけたもので性交を意味するひわいな名称となっていることを話し、それが通用してきた男性中心社会について考えさせるのもよいだろう。（内性器の名称はこのパンフレット4頁にあります）

## 3. 下垂体という目覚まし時計が鳴ると…

12～13歳ごろになると、脳の下垂体前葉から性腺刺激ホルモン（性ホルモンの分泌を誘発するホルモン）が出て卵巣に働きかける。すると、卵巣からは女性ホルモンが分泌され血液に混じってからだ中にゆきわたる。そして、二次性徴があらわれる。

## 4. 二次性徴

からだはどんなふうにかわるのかな？ マグネット式のわき毛、乳房、性毛などの各部品を児童たちに配り掛図にはらせる。全員参加の楽しい授業が展開される。乳房がふくらみ腰が発達し、わき毛や性毛がはえて丸みをおびたからだつきになる。

●二次性徴=あかちゃんが生まれたとき、その性器で男の子か女の子かをみわけるが、それが一次性徴。思春期になって性的特徴の差異がはっきりあらわれるのを二次性徴という。

●女子の中には、はずかしがる子もいるが、なぜはずかしいのか？ 性ははずかしいものではなく大切なもの——と教えるきっかけにしたい。

## 1. 女子の性器



おなかの中にも性器はあります。正面から見た絵です。右下は横から見たところ。

卵巣、卵管、子宮、ちつ（ワギナ）など各器官の名称をおぼえさせましょう。

## 2. 成熟する卵子／卵子ってなーんだ？

卵子は卵巣の中で成熟して、毎月一個ずつ卵巣からとび出すようになる。（子宮内膜も少し厚くなります<卵子と子宮内膜をはる>）

## 3. 排卵

ポンと卵子が卵巣からとび出した。卵管の先の手のひらのようになったところ、卵管采は、卵子を上手につかまえて卵管へ送りこむ。子宮内膜は、卵子がいつあかちゃんになってもよいように、栄養や酸素をためて厚くなって待っている。（子宮内膜をはりかえる）

## 4. 月経／初経

みんながあかちゃんを生むのは、ずっと先のこと。だから、あかちゃんの栄養や酸素（厚くなった子宮内膜）もいらなくなって、ちつ（ワギナ）を通して外へ出てくる。これが月経、はじめての月経を初経という。

●月経は12、3歳ごろから52、3歳ごろまで、約40年間つづく。初経の年齢には個人差があること、はじめのうちは不規則だが、だんだん規則正しくなると教える。

